

2020.12  
(公社)富山県薬剤師会  
広報誌

# とみや 富薬

12号

第42巻

No.377



ユチャ *Camellia oleifera* Abel

(ツバキ科 *Theaceae*)

**生薬** チャシシン（茶子心） 秋に収穫した果実を10日ほど日干しすると殻がはじけ、種子を取り出し、再び陽乾する。油を取るには、種子を粉状に挽いて蒸した後圧搾する。

**成分** 脂肪油：oleic acid, palmitic acid, stearic acid, linoleic acid, linolenic acid, camellin I, II, sasanquasaponin 等。

**効能** 腹痛、皮膚掻痒、やけどに用いる。チャユ（茶油）製造原料。油は食用または皮膚保護剤として日焼け炎症の防止、やけど、かぶれに用いる。



生薬 チャシシン（茶子心）

元富山県薬事研究所  
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

## 〇〇表紙について〇〇



中国中南部の各省や台湾、ラオス、ベトナムなど広く暖帯に植栽されている常緑低木または小高木で、海南省には野生種の原生林が見られます。サザンカ節 (sect. *Oleifera*) に分類され、開花時期はツバキ節 (sect. *Camellia*) のツバキ (*C.japonica*) とは異なりサザンカ (*C.sasanqua*) と同じく11-1月と冬季に咲きます。花は1-3個葉腋または枝先に白色の花を多数咲かせ、全体が白花で覆われたように咲く様子もサザンカに似ています。秋に実る球果も着果がよく多くの実を付け、直径2-4cmと大型で、1果に1-3個入り、種子も大きいことから多収穫が期待できます。樹高は3-5mで樹皮は黄褐色、若い枝がやや毛に覆われています。材は非常に

硬く弾弓(パチンコのような武器)や独楽の材料として用いられていました。葉は互生し、革質で厚く楕円形または卵状楕円形、小鋸歯縁、短い葉柄があります。広い範囲で長年栽培されたためか変異が多く、花卉数は5-9枚、花径4-7cm、開花期も11-1月と個体差が大きくばらついています。萼片の外側にはピロード状の密毛があります。また、近縁のサザンカやトウツバキ (*C.reticulata*)、ハルサザンカ (*C.×vernalis*) などと種間雑種が容易にでき、種々の園芸種が生まれています。日本には1930年以前に採油用として種子が輸入されていましたが、1960年頃からは植栽用として種子や苗木が輸入されるようになりました。

中国では食用油としての利用は古くからあるようですが、あまり記録には残っていません。明代の『農政全書』(1639)に「楂」の名で「楂木は閩(福建省)、広(広東省)、江右(江西省)の山谷に生え…殻の中には種子が1-4個あり、栗によく似、種皮は非常に薄く、仁皮の色は榧(*Torreya nucifera*)のようで、仁肉は栗のようで、味は甚だ苦で膏油が多い。閩、広、江右の人はこの油を用いて灯をとますが非常に明るく、諸油に勝り、食することもできる」と記されています。続いて「油の製法毎年寒露(10月8日頃)の3日前にとると油が多いが、それを過ぎると少なくなる。種子をとり高所で陰干しし、風を通し、半月たつと裂けるので殻を取り去る。早く開いたときは広げて日干しすれば1-2日で開く。避けたあと種子をとり、日干しして乾燥させ、臼で細かくひきよく蒸す。以上が搾油の常法である」と、現在の採油法とほぼ変わらぬ方法が書かれています。薬効についても「疥癬を療す。湿熱を退かせる」と記されています。

油を取る *Camellia* 属植物は他にも多くあります。代表的なものが椿油で本州、四国、九州、朝鮮半島の一部の海岸に自生または栽培されるヤブツバキ (*C.japonica*) の種子を搾った油で、ほぼ日本独自の油と言ってよく、古くは『続日本紀』(797)の宝亀8年(777)に渤海国使に海石榴油一缶を送ったことが記され、古くから日本の特産品であったことが分かります。現在は食用や化粧品、薬品など広く用いられている高級油です。ユチャと近縁のサザンカ (*C.sasanqua*) は日本固有種で、本州西南端の山口県、四国西南部、九州北部から西表島まで分布し、長崎県諫早地方で栽培され、カタン油の名で採油されています。また、中国中南部の山地に自生または栽培されるツバキ節の浙江紅花油茶 (*C.chekiangoleosa*) やベトナム原産で、中国南部で栽培されるサザンカ節の越南油茶 (*C.vietnamensis*) も採油用に栽培されています。更によく知られているチャ節 (sect. *Thea*) のチャ (*C.sinensis*) は11-12月に葉腋に花を開き、翌年に結実するところから新芽と共に刈り取られることがなく種子が採れ、採油もされています。

(村上守一 記)